

（１）本年度の N I E 活動の概要

今年度より N I E 指定校研究を始めるに当たり、これまでの授業における新聞の活用について、学校職員で確認し合った。朝の会の話題に使用する等の活用はあるものの、授業の教材として扱っている教師は少なかった。また、新聞を取っていない家庭も増えてきていて、子どもたちにとって、新聞があまり身近でないことが見えてきた。

そこで今年度は、まず授業でどのように使えるのかを明らかにしていくとともに、子どもたちが新聞に触れる機会を増やしていくことを目標に活動していくこととした。

授業で新聞を使ってみることで、子どもたちが記事の書き方を身に付けたり、ニュースを読み取る力を身に付けたりもした。新聞を使ってみることで見えてきた漢字や記事の難しさに対する教師の支援や、授業の目標に合った効果的な活用方法の研究等、これからより明らかにしていきたい事柄が見えてきたので、2 年次に追究していきたい。

（２）本年度の N I E 活動の取り組み状況（４月時点）

本校は全校児童 6 2 2 人、2 3 学級（内特別支援学級 5）ある。教師の多くは新聞を授業で活用したという経験が少なく、N I E というものをよく知らないという状況であった。そこで、1 年目の本年度は、2 年 2 組の授業を全校研究授業とし、その授業を基に各学級でまずは新聞を活用した授業をデザインしてみようということ始めた。

2 年 2 組には普段新聞を見ない子どもが多く、目にする子どもも、読めない漢字が多いため、主に写真を中心としていた。

また、全職員への N I E の共通理解を図るべく、6 月 1 0 日に長野県 N I E 推進協議会の方々を講師にお招きし、研修会を行った。

（３）N I E 活動のねらい（育てたい力）

まず、教師は、新聞を授業でどのように活用できるかを明らかにすることを目標にした。その中で、子どもたちに育てたい力も、文章を読み取る力や新聞の構成を意識した表現する力等、どのようなものがあるのか考えていくことにした。

（４）全校での取り組み

【全職員による研修会】

6 月 1 0 日（水）に授業を行う教師全員を対象に、長野県 N I E 推進協議会のみなさんを講師にお招きし、N I E の基本的な考え方を説明していただいた。新聞の見出しや写真の使い方等の構成を学ぶ「新聞を学ぶ」と、新聞記事を基にして教科の教材とする「新聞で学ぶ」の大きく 2 つの活用方法があることを教えていただいた。

N I E について難しく考えていた教師に対し、「まずはやってみよう」と思える研修会となった。

【新聞コーナーの設置】

9月から12月まで8紙が届けられ、昇降口に新聞コーナーを設置した。4ヶ月間毎日8紙を並べることで、朝登校してくると、まず「今日のニュースは何か？」と見に来る児童が出てくるなど、それまでよりも新聞に興味が出てきた児童が増えてきた様子が見られた。



昇降口の新聞コーナー



気になる記事を読む児童

【バックナンバーの保存】

授業で活用するには、最低でも1人に1日分の新聞が必要になると考え、新聞コーナーに置いた後も処分せず、全紙を保管しておいた。

実際に教師が授業で使う際にも、過日のものが必要になることもあり、保管の必要性を感じた。

(5) 公開授業などの活動内容

【実践授業】 9月30日(水) 5校時 2年2組(男子16人 女子16人 計32人)

1 単元名：『読んで考えたことを話そう』(国語)

2 主眼：自分が選んだ新聞記事を紹介する場面で、どのように紹介すれば聞く人に分かってもらえそうか、学習していく意欲がもてる。

- ・前時まで：一般紙や子ども新聞を読んで気になる記事を選び、色々なタイプの記事を読んでみたいという興味をもち始めた。

- ・つける力：①時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の概要を捉えることができる。

- ②文章の内容と自分の経験とを結びつけて、感想を持つことができる。

3 展開：(1) 学習問題「新聞記事を紹介しよう」を確認する

(2) それぞれの児童の机の上に置かれている新聞の一面記事を読み、一番気になる記事を一つ選ぶ

(3) お互いが選んだ記事を紹介し合う(ペア学習)

(4) 紹介してもらった記事を実際に見に行く(ペア学習)

(5) 紹介の仕方です上手だった部分を伝え合う(ペア学習)

(6) 紹介をするときに困ったことを出し合う(全体学習)

(7) 上手な紹介の仕方について『どうぶつ園のじゅうい』を使って学習していくことを確認する

4 反省：・1時間に多くの活動を盛り込みすぎてしまった。事前に記事選びを終えておき、

- その記事のコピーを手元に置いて、紹介の仕方を練習する場を設ければ良かった。
- ・2年生の子どもたちでも、子ども新聞を使えば写真だけでなく文章からでも記事の中身に触れられることが分かった。継続していき、文章読解能力を高めていきたい。

5 研究会で示唆されたこと

- ・たくさんの記事から一つを選んで紹介するという活動は、中学校・高校・大学でも行うことのできる内容で、それを2年生ができたということは、小学校の全学年で同様の活動ができるということである。
- ・記事を詳しく読む前に、「見出しを見る」という切り口を子どもたちに伝えたい。
- ・信濃毎日新聞には、毎週水曜日にN I Eの記事が掲載されているので、活用していきたい。
- ・記事を見て回るときに、メモを取りながら見て回ったり、自分が選んだ記事のコピーが手元にあるなど、子どもたちが見返しやすい手立てが必要であった。
- ・新聞を読むことに慣れるために、家庭学習に信毎学習シートを使うとよいと思われる。
- ・出前授業で新聞作りをやっていることを紹介されたので、今後活用していきたい。
- ・社会の「分からない」に出合えるのが新聞なので、導入に使っていきたい。
- ・どの教科でも「新聞は使えるか？」という意識で授業をデザインすると、色々な場面で使えるようになってくる。
- ・子どもたちの紹介の仕方が、見出しや写真、記事に触れた紹介になるよう指導していきたい。
- ・今回の授業で、紹介する文章を書けなかった子どもがいた。その子どもたちがどこで困ったのかを教師たちが共有できれば、これからの学習に対して課題が見えてくるのではないかと思う。

6 その他の学級の活動

・1年

国語 『カタカナさがし』

主眼：1年生になってひらがなの学習を終えて、カタカナの学習に入った子どもたちが、習ったカタカナを新聞からさがし、読むだけでなく正しく書けるようになるようとする。

・3年

社会 『諏訪めぐり新聞を作ろう』

主眼：社会見学「諏訪めぐり」について、家族に知らせる新聞を作る場面で、新聞にはどのようなことが書かれているかを、実際の新聞や子ども新聞を見て気付き、「諏訪めぐり新聞」を作る意欲をもつ。

・4年

社会 『安全な水はどこから～浄水場の秘密を探り、新聞を作ろう～』

主眼：自分たちが普段当たり前のように使用している水道水が、どのように自

分たちのところまで届けられているのかを、実際に浄水場の見学をすることを通して、新聞にまとめることができる。

・ 5 年

国語 『あなたは、どう考える』

主眼：目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にし、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

国語 『新聞を読もう』

主眼：新聞を持ち寄って一面をよく見ることを通して、新聞がどのような作りになっているのかを気づき、確かめることができる。

・ 6 年

国語 『新聞を読もう』

主眼：新聞のコラムを書き写すことを通して、起承転結のある文章の書き方を知ったり、新しい言葉を知ったりする。

・ 特別支援学級（知障）

総合的な学習の時間 『新聞記事を読もう』

主眼：信毎建設標の小学生の投稿記事を読み、表現がよいと思う部分に線を引き発表し合うことを通して、自分の生活を振り返ったり命の大切さに改めて気付いたりする。

・ 特別支援学級（自情障）

国語 『記事を読んで思ったことを伝え合おう！』

主眼：身近な記事に関心を寄せて読み、内容を捉えて、そこから自分の考えたことや思ったことをカードに書くことができる。

国語 『各々のお気に入りの記事を合わせてオリジナル新聞を作ろう』

主眼：自分が興味を持った記事を読んで感想を持ち、それぞれの興味を持った記事を貼り合わせて一つのオリジナル新聞を作る活動を通して、新聞に親しみを持つことができる。

国語 『つたわる言葉』

主眼：身近な新聞にあるコラム（信濃毎日新聞）に興味を持ち、語彙を増やす。

（6）児童の反応

新聞を読むという活動に抵抗感が減ってきて、1日分の新聞を渡すと、各ページをパラパラと目を通すことができるようになってきた。その中で目にとまる記事もあり、そこから友達と意見交換を始める子どもも出てきている。

また、新聞作りに関しては、今までも見出しやリード文、本文については学習してきたが、色々なタイプの新聞記事に触れたことで、見出しの向きや大きさや画像選びについても、それぞれの子どもが読みやすさという視点をもてるようになってきている。

（7）成果と課題

子どもたちが新聞に慣れ親しんできたことと、教師たちが「授業で新聞を活用してみよう」
と思えたことが、本年度の一番の成果であったと思う。2年次に向けて、新聞コーナーの改
良を行い、日頃から新聞にふれあう環境を作っていきたい。

新聞を活用した授業については、今年度はそれぞれの教師がデザインした授業を、それぞ
れ実践した。実践を通して見えてきた課題や支援方法など、2年次は学年会等で検討しても
らうことで、子どもたちにとって、さらに深い学びとなる学習になるよう授業研究を行って
いきたい。